

「じゅんろといのちを考える集い」  
心の健康づくり・自殺予防講演会

心の病気は、自らが心の不調に気づくことや身近な人が気づくことが大事です。しかし、心の病気に気づかなかつた自分を責めてしまいがちですが、一人で悩まずにみんなで支えあうことが大切です。

講演会では「秋田いのちの電話」で活動している阿部事務局長さんに、体験を踏まえたお話しをしていただきます。次の内容で講演会を開催しますので、皆さんの参加をお待ちしています。

※「秋田いのちの電話」は電話を通して孤独や悩み、苦しんでいる方に寄り添い、再び生きる力を取り戻すことを精神的に支えることを目的に活動しています。

①基調講演  
「生きること悩むこと」のいのちの電話と支え合いの心  
講師 秋田いのちの電話 事務局長 阿部 恒夫氏



- ②朗読 「母への想い」 「隣のおばさん」 傾聴ボランティア えくぼの会
- ◆日時／7月1日(月)
- ◎受付／12時50分～13時20分
- ◎時間／13時20分～15時30分
- ◆場所／田沢湖総合開発センター 大集會室
- ◆申込締切／6月27日(木)
- ※送迎車が出ます。ご利用希望の方は申込時に申し出ください。
- ◆問合せ／仙北市保健課 (55) 1112

「高齢者肺炎球菌ワクチン」  
任意予防接種助成事業」  
のご案内

仙北市では高齢者の肺炎球菌ワクチン予防接種に要する費用の一部を助成する事業を行っています。

◆肺炎球菌ワクチンとは／高齢者の肺炎の原因となる病原体のなかで最も頻度の高い「肺炎球菌」に対するワクチンです。

◆助成対象者／仙北市に住民登録されている方で予防接種をする日現在で75歳以上の方です。

◆助成の額・回数／接種料のうち3千円を助成します。(1回限り)



◎生活保護受給者であることが確認できる書類を医療機関へ提示してください。

◆助成期間・接種医療機関／平成26年2月28日の間に仙北市・大仙市・美郷町にある接種協力医療機関で接種してください。

◆その他／接種協力医療機関の確認は直接医療機関に問い合わせるか保健課にご連絡ください。

◆問合せ／仙北市保健課 (55) 1112

健康な今こそ受けようがん検診  
子宮頸がん、乳がん、肺がん病院検診のお知らせ

●健診病院：市立角館総合病院

	子宮頸がん・卵巣腫瘍検診	乳がん検診	肺がん検診 (CT検査)
対象年齢 (H 26年4月1日の年齢)	・20～39歳 ・40歳以上の偶数年齢 (2年に1回)	40歳以上の偶数年齢 (2年に1回)	40歳以上
予約申込期間	11月18日(月)まで		11月15日(金)まで
検診期間	11月28日(木)まで 月曜日、木曜日		11月28日(木)まで 木曜日
当日受付時間	正午～12:30		15:00～15:30
料金	1,300円	1,000円	2,000円

※子宮頸がん、乳がん検診の対象者は、5月に各世帯に配布された「健(検)診受診案内」の「このたびあなたが受ける検診」の欄でご確認ください。

◆予約先／市立角館総合病院 医事課健診係 (54) 2145  
※必ず予約をしてください。  
◆予約受付時間／9時～15時  
◆予約のしかた／「仙北市の〇〇検診を受けたい」と伝え、氏名、生年月日、住所、電話番号、保険種別をお伝えください。

平成25年度、子宮頸がん検診・乳がん検診は特に混雑することが予想されます。早めの受診、できるだけ、お盆前の受診をお勧めします。

子宮がん・卵巣腫瘍検診、乳がん検診の注意事項  
◎治療の方は、引き続きかかりつけ医療機関を受診してください。  
◎乳がん検診は時間がかかりますので、時間の余裕をみて受診してください。  
◎クーポン券で受診される方は、クーポン券を忘れずにご持参ください。  
◎予約した後、キャンセルする場合は早めにご連絡ください。

◆問合せ／仙北市保健課 (55) 1112



まちづくり  
日記

No.57

企業誘致②

『秋田・仙北夢牧場』その1』

仙北市長 門脇 光浩

昨年の11月21日、県は12月県議会に向けて県政協議会(県議会各会派に対する案件説明)を行っていました。ここで以前から仙北市が誘致を進めてきた「大規模肥育牛団地事業」に、県が支援を行うことを公表しました。県政協議会にはマスコミが同席していたことから、12月補正予算の注目事業として夕方のテレビニュース、翌朝の新聞などで取り上げられました。

この時点の県支援は、牛舎設計料や敷地造成費に係る事業費の2分の1を誘致主体の仙北市に補助し、仙北市は事業費4分の1相当額を高上げて県補助と合算、それを事業主体(北海道大平畜産工業とJA秋田おばこ)が出資する秋田・仙北夢牧場)に補助する仕組みです。県は義平福(県が所有する種雄牛)の子牛が長崎県の共進会で2位を受賞したことから、この機会を逃さず、仙北市の計画を県内畜産振興の起点として支援することで、県産牛のブランド化や畜産振興での農業の生産構造の改革を進めようと考えていました。市はもとより、肥育に必要な粗飼料等を市内農家が生産した場合、現行の補助制度で年間1億6千万円(1千

頭規模で試算)の農家所得が向上すること、またレストラン経営による雇用の拡大などで市にとつての恩恵も多く、県の補助はともありがたいものでした。しかし一方では大いに慌てました。

同事業は当時、団地造成地(中川地区上萩台)に隣接する集落の皆さんへの説明など、基本的に最も重要な対応ができていませんでした。平成24年度は、主体となる大平畜産工業と団地全体の青写真を描こう、その図面づくりを地元の方々と意見を交えて進めよう、そんな事業計画画でした。平成22年の7月から少しずつ進めてきた誘致活動が一足飛びに動き出し、県の補正予算で公の報道になることなど、誰も予想することができない状況でした。

地元協議が不可欠と考えていたのは、角館・黒沢集落と西木・外谷地の2集落、そしてホテル1軒です。報道後の開催となった集落説明会は、「地元おきざりの企業誘致」と大変なお叱りの中でスタートしました。申し開きができない状況でした。

～NEXT続～